

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：37303

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12931

研究課題名(和文) 海境の文化資源とコスモポリタニズムに関する研究

研究課題名(英文) Study on the cultural resources of "Kai Kyo" and cosmopolitanism

研究代表者

俵 寛司 (TAWARA, Kanji)

長崎国際大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：80463925

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：「海境」とは、「国境」以前の前近代の「境界」を分析するにあたっての概念で、「移動」や「翻訳」、トランスナショナルな「ネットワーク」のように流動的であるがゆえに統治権力が及ばない地域(アジール/無縁)の特徴が顕著な空間/海域のことである。本研究では、そのような特徴が顕著な地域(海域)についてコスモポリタニズムの視点から理論的考察のため、以下の3つの「ステージ」に分けてケーススタディを進める。すなわち、ステージ1：日本海周辺の島々、ステージ2：太平洋周辺の島々、ステージ3：東南アジア海域の島々についての基礎的調査・研究である。

研究成果の概要(英文)：The Kai Kyo (maritime boundary) is a concept in analyzing the pre-modern "border" before the modern "boundary". It is a space / sea area like the Asylum / Freedom: Muen in Japanese, characterized by "movement", "translation", and transnational "network". It is remarkable that governance power does not reach there because of its fluidity. For a cosmopolitan theoretical consideration, this research will be divided into three case studies, 1: islands around the Japan Sea, 2: islands around the Pacific Ocean, 3: islands in the Southeast Asian seas.

研究分野：考古学

キーワード：海境 コスモポリタニズム 移動・越境 文化資源 島嶼・海域史 東アジア 東南アジア 日本

1. 研究開始当初の背景

歴史学、人類学、そして考古学など、人文社会科学の「実践」(practice/ praxis)は、その研究フィールドによって「外部」と「内部」の間のどこかに位置づけられる。たとえば、ある地域や社会に焦点を当てる研究者たちは、いくつもの異なった位置から彼らの調査を実行するかもしれない。さらには、同じ地域に生きるものとそうでないものとは、彼らの社会的・歴史的背景を反映して、異なったパースペクティブをみせる。このことは、近代/前近代、科学的/非科学的、客観的/主観的、普遍的/個別的など、2項対立的な存在として容易に概念化される傾向にある。しかし、本研究の実践において、そのような2項対立的な見方には同意できない。

まず、「海境」の歴史的、質的变化を理解するにあたっては、各時代の社会形態の検討が不可欠である。研究の学術的背景において述べた「フロンティア」の概念について、バートンによれば「国民国家」成立以前に国家が存在し、「実体」としての「国境」は存在したと考えている。世界史的に見ても、近代以前の「国境」が存在せず、不確定で曖昧なフロンティアが一般的であるという主張は、バートンに限らずこれまで多くの歴史学者や政治地理学者、社会学者による先行研究がある。「国民国家」が成立する以前の、前近代の「国境」が現代のそれと同様なものであるという点は明らかに誤りであり、近年の「コスモポリタニズム」の議論とも相容れない。

現代のコスモポリタニズムとは、18世紀ユートピア概念の再現ではなく、「亡命」や「難民」「植民」といった特権を持たず、同時にナショナル・アイデンティティから逸脱した存在の概念として表される。すなわちそれは資本主義の繁栄による特権階級の代物ではなく、むしろ1990年代以降のポストコロニアル研究において主張される「移動」や「翻訳」、トランスナショナルな「ネットワーク」といった現代世界に特徴的な流動的かつ非本質主義的な存在に意義を見出す視点と共通するものであり、1980年代以降、網野善彦氏ら歴史学者により主張されている中世日本の「アジール」の含意とも近い(網野1996)。ただし現代のそれは決してポジティブな意味ばかりではなく、「グローバリゼーション」の狭間の社会的な窮地に置かれる「リスク」の存在ゆえに「ネガティブ」な意味をも両義的に備え持つのである。

一方、近年の人文社会科学においては、テーマ設定の自由化や研究の拠り所となる理論の相対化がなされる中、新たな研究の拠り所として注目されるのが「資料」である。これは、かつての歴史学や考古学がそうであったように、資料(史料)をただデータとしてのみ捉えるのではなく、歴史社会の中で生み出され、社会において特定の機能を果たした「遺物」と見なし、その誕生の背景などを考

察するものである。そこでは「資料」は、過去から現在にかけての歴史社会に関する情報を提供するだけでなく、それが社会に与えた「記憶」についても研究の対象とされる。そこで本研究の狙いは、そのような「過去」を研究対象としながら、上に述べた「移動」や「翻訳」、トランスナショナルな「ネットワーク」といった現代世界に特徴的な自他共に流動的かつ非本質主義的な存在を「コスモポリタニズム」と表し、その特徴が顕著な領域(本研究では「海境」と呼称する)の文化資源について考古資料の面から初歩的な調査と理論的考察を進める。ひいては、現代世界における物質文化をめぐる停滞的、本質主義的な認識を凌駕するために、「フロンティア」や「アジール」という文化的、社会的な境界性/非境界性への理解をも今一度解体しなおし、理論的に再構築しようと試みるものである。

2. 研究の目的

ブルース・バートンは、前近代の「国境」を分析するに当たり、政治地理学における概念を引きながら「国境」(広く言えば政治的境界)には「バウンダリー」と「フロンティア」という二つの形態があるという視点から考察している(図:バートンによるフロンティア概念 Batten 2002)。

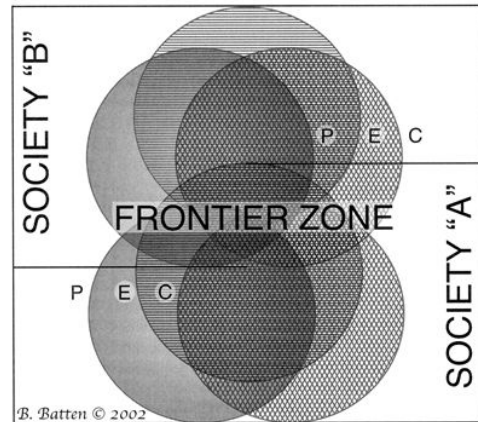


FIGURE 3. The frontier zone as a set of multiple, overlapping borders. P = polity; C = culture zone; E = ethnic group.

両概念は、ともに国家の領域支配の地理的境界を示し、自国と他の国家を含めた外部世界とを区別するという点で類似している。総じていえば、ここでいうフロンティアこそが、「前近代」における日本の「境界」を特徴づけるものと考えるのである。1990年代以降のポストコロニアル研究においては、「移動」や「翻訳」、トランスナショナルな「ネットワーク」といった現代世界に特徴的な流動的かつ非本質主義的な存在の意義が主張され、近年では両義的な意味を持った「コスモポリタニズム」の概念が議論されている。本研究では、そのような特徴が顕著な地域(海境)を「海境」と呼称する。

以上の議論を踏まえ、本研究は「移動・翻訳・ネットワーク」という鍵概念を通じて「海

境」という、いわばコスモポリタニズム的な解釈を含む文化資源の活用について理論構築を目指す。

3. 研究の方法

「海境」とは、「国境」以前の前近代の「境界」を分析するにあたっての概念で、「移動」や「翻訳」、トランスナショナルな「ネットワーク」のように流動的であるがゆえに統治権力が及ばない地域（アジール／無縁）の特徴が顕著な空間／海域のことである。本研究では、そのような特徴が顕著な地域（海域）についてコスモポリタニズムの視点から理論的考察のため、以下の3つの「ステージ」に分けてケーススタディを進めるものである。すなわち、ステージ1: 日本海周辺の島々、ステージ2: 太平洋周辺の島々、ステージ3: 東南アジア海域の島々についての基礎的調査・研究である。

4. 研究成果

(1) 平成 27 (2015) 年度: 8 月 11 日から 8 月 20 日にかけて、長崎県対馬市・壱岐市における調査を実施した。対馬市では、研究協力者である鄭仁成（韓国嶺南大学校文科大学文化人類学科准教授）と共に、対馬島内の各資料館において出土資料の観察と発掘調査報告書等の収集、集落遺跡推定地を踏査した。壱岐市においては、長崎県埋蔵文化財センター及び一支部博物館において遺跡出土資料の観察と関連資料の収集、原の辻遺跡、串山ミルメ遺跡など島内各地の集落遺跡の踏査を実施した。3 月 24 日から 3 月 31 日にかけて、島根県隠岐及び山陰地方の遺跡・博物館等を調査した。隠岐では、隠岐の島町・海士町・西ノ島町の 3 島の遺跡・資料館等で資料収集を行い、本土側では山口・島根・鳥取各県の遺跡を踏査し、また、各地の博物館等で遺物を観察することで、古代出雲及び隠岐の歴史的背景について基礎的な把握ができた。さらに、本研究課題に関連する成果をふたつの国際学会で発表した。6 月に韓国慶尚北道慶山市で開催された鬱陵島国際会議「地方居住地の島嶼性と鬱陵島の交通 - 交通の変化・ネットワーク・交易・文化」及び同年 7 月にパリ第 10 大学で開催された東南アジア考古学者ヨーロッパ協会第 15 回国際会議である。上記会議への参加とあわせ、各地の大学・博物館・遺跡等で調査を行った。

(2) 平成 28 (2016) 年度: 12 月に韓国済州島での現地調査を実施し、国立済州大学を拠点として済州大学博物館及び在日済州人センター、済州特別自治道民俗自然史博物館、済州海女博物館、済州 4・3 平和記念館、国立済州博物館等での資料調査及び現地踏査を行った。また、6 月から 9 月にかけて対馬市及び壱岐市での補足的な調査を実施した。3 月に沖縄本島での現地調査を実施し、那覇市の沖縄県立博物館・美術館、壺屋焼資料館で

の遺物観察と、首里城・今帰仁城跡・斎場御嶽等の遺跡踏査に加え、沖縄県平和記念資料館・ひめゆり平和記念資料館等の戦争関連施設等の現地視察も行った。また、同月に南九州（熊本・鹿児島・宮崎各県）の調査を実施し、瀬戸内海沿岸部の遺跡の立地、また、各地の博物館等で遺物を観察することで、「南島」の歴史的背景について基礎的な把握ができた。更に本年度より山形真理子（金沢大学国際文化資源学研究センター教授）が分担研究者として研究に加わり東南アジア島嶼部のケーススタディを実施している。本研究に関連し、第 8 回世界考古会議京都大会で 2 本の口頭発表を行ったほか、講演活動を通じて成果を公表している。

(3) 平成 29 (2017) 年度: 本研究の「ステージ 2」として、8 月 8 日～8 月 17 日、小笠原諸島（東京都小笠原村）および関連地域（伊豆半島）における歴史・文化（民俗）・自然遺産等の基礎的調査を実施した。小笠原諸島では、父島での調査に加え母島での調査を実施し、伊豆半島では伊豆半島東部から南部にかけての調査を実施した。同年 9 月 1 日～9 月 3 日、鹿児島県薩摩川内市において開催された 2017 年次日本島嶼学会甌島大会において研究発表を行った。さらに 2 月に「対馬の記憶と未来のかたち - 社会学・民俗学・考古学から考える」と題しワークショップを開催した。

以上、3 年間の研究期間において、長崎県対馬・壱岐、島根県隠岐、韓国済州島、小笠原諸島、沖縄本島、ベトナム・トーチュウ島に関する調査・研究を実施し、さらに南九州、瀬戸内地方の島嶼・海域についても調査を実施した。これら対象地域はこれまで民族学・民俗学や歴史学の方面からの調査研究が行われているが、本研究が対象とする資料、特に聖地・祭祀地など「アジール」的な宗教関連施設に関しては考古学的に解明されていないものも多い。今回、研究協力者及び現地の自治体・研究機関とも連携・協力しながら現地での遺跡踏査を実施し、基礎的な情報を収集・記録した。博物館等所蔵資料についても現在の研究状況に照らして可能なものは実測・写真撮影等の方法でデータ化に努めた。それら研究成果については国際学会、国内学会で発表を行っており、さらに考古資料=物質文化の調査と併行し、現地での聞き取り調査など「生きた」記録や関連文献などの調査を実施し、ワークショップを最終年度に開催した。以上のことから当初の研究目標・計画はほぼ達成できたものと考えられる。

本研究の成果は、考古資料に特化したものとしては前例がなく、収集した文献・データ等を基礎にした研究の視座や方法の深化が期待される。また、本研究において展開された地域（海域）のケーススタディは、学史的に見てもこれまで十分検討がなされなかつ

た部分に光を当てるものであり、日本国内ばかりでなく、アジア・太平洋に広がり、その周辺諸国に関する資料も数多く含まれることから、トランスナショナルな資料の歴史を記録と記憶の面から補完する役割を持っている。一方、「海域」が重要なのは陸にある大きな市場をつなぐからであり、「海+陸」を常にセットとして考える必要がある。日本列島を含む東アジア、太平洋、そして東南アジアにおいてさらなる現地調査、理論的考察が必要であり、「日本とは何か」ひいては「アジアとは何か」についての研究の開拓を目指して本研究を深化させていきたい

<引用文献>

網野善彦、[増補]無縁・公界・楽 日本中世の自由と平和、平凡社、1996(原著1978)
Batten, Bruce. To the Ends of Japan: Premodern Frontiers, Boundaries, and Interactions. Honolulu: University of Hawaii press. 2002

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

TAWARA, Kanji The culture of Tsushima and the movement of the sea current. The 6th Uilleungdo Forum / 2015 Uilleung Island International Conference: The Island-ness of Local Residents and Transportation in Uilleung Island- Changing Transportation Networks, Trade, and Culture -. Uilleung Island, South Korea. pp.159-180. 2015年
依寛司 “越境”
-

The 6th Uilleungdo Forum / 2015 Uilleung Island International Conference: The Island-ness of Local Residents and Transportation in Uilleung Island- Changing Transportation Networks, Trade, and Culture -. Uilleung Island, South Korea. pp.181-204. 2015年

依寛司、邪馬台国時代の対馬、ふたかみ邪馬台国シンポジウム16、邪馬台国時代の狗邪韓国と対馬・壱岐、香芝市二上山博物館友の会・ふたかみ史遊会、pp.79-100、2016年

依寛司、まちなみ景観と遺跡保存 - 日韓国境、対馬における調査事例から、内なる「越境」に向けて -、長崎国際大学論叢 17、pp.23-38、2017年<査読あり>

Mariko Yamagata and Hirofumi Matsumura Austronesian Migration to Central Vietnam: Crossing over the Iron Age Southeast Asian Sea. In: Piper, P.J., Matsumura, H. and Bulbeck, D. (eds.) New Perspectives in Southeast Asian and Pacific Prehistory. Tella australis 45, ANU E Press. pp.333-355. 2017年 <査読あり>

Hirofumi Matsumura, Marc Oxenham,

Truman Simanjuntak and Mariko Yamagata The Biological History of Southeast Asian Populations from Late Pleistocene and Holocene Cemetery Data. In: Peter Bellwood ed. First Islanders: The Prehistory of Island Southeast Asia. Wiley & Sons, Inc. pp.86-130. 2017年<査読あり>

[学会発表](計13件)

TAWARA, Kanji The culture of Tsushima and the movement of the sea current. The 6th Uilleungdo Forum / 2015 Uilleung Island International Conference: The Island-ness of Local Residents and Transportation in Uilleung Island: Changing Transportation Networks, Trade, and Culture. June 10-12, 2015, Uilleung Island, South Korea. 2015年6月10日

TAWARA, Kanji From regalia to festival: re-examination of the classification and chronology to specimens of later half of Heger I type bronze drums in East and Southeast Asia. The 15th International Conference of the European Association of Southeast Asian Archaeologists, 6-10 July, 2015. Université Paris Ouest Nanterre la Défense, Paris. 2015年7月9日

依寛司、対馬の文化財ってこんなにすごいんだ! 講座(古代・中世編) 対島市総合政策部観光交流商工課/歴史の街づくり・世界遺産登録推進室(4月16日、上対馬総合センター) 2016年4月16日(依頼あり)

依寛司、対馬の文化財ってこんなにすごいんだ! 講座(近世編) 対島市総合政策部観光交流商工課/歴史の街づくり・世界遺産登録推進室(4月17日、対馬市交流センター) 2016年4月17日(依頼あり)

依寛司、脱植民地主義のベトナム考古学 - 「ベトナムモデル」「中国モデル」を超えて - 東南アジア学会第95回研究大会東南アジア史学会賞受賞記念講演(大阪大学豊中キャンパス) 2016年6月4日(依頼あり)

依寛司、邪馬台国時代の対馬、ふたかみ邪馬台国シンポジウム16、邪馬台国時代の狗邪韓国と対馬・壱岐、香芝市二上山博物館友の会・ふたかみ史遊会(7月17-18日、香芝市ふたかみ文化センター) 2016年7月18日(依頼あり)

TAWARA, Kanji The kiln fired pottery in northern Vietnam. The 8th World Archaeological Congress, Doshisya University, Kyoto, 2016年8月29日

TAWARA, Kanji Ceremonial and sacred places (asylum) in Tsushima: a cosmopolitan view on the border between Korea and Japan. The 8th World Archaeological Congress, Doshisya University, Kyoto, 2016年8月30日

依寛司、遺跡発掘を通じた地域連携(長崎県) 第2回国際観光研究所シンポジウム(長

崎国際大学：佐世保市）2016年11月5日
依寛司、山形真理子、海境の文化資源とコスモポリタニズム - 日本海・太平洋・東南アジアの島々を中心として - 日本考古学協会第83回総会（大正大学：東京）2017年5月28日

依寛司、考古学から見た海境 - 島嶼・本土関係の再構築に向けて -、2017年次日本島嶼学会甌島大会（薩摩川内市里公民館／里定住センター）2017年9月2日

依寛司、考古、歴史的観点から中国の多様性を考える - 中国・ベトナム地域を跨ぐ歴史的世界 -、多様性共存に関する統合学際型日本研究プロジェクト ワークショップ（九州大学大学院比較社会文化研究院／地球社会統合科学府）2017年12月1日（依頼あり）

加藤剛、申鎬、依寛司、対馬の記憶と未来のかたち - 社会学・民俗学・考古学から考える（対馬ワークショップ）NPO法人対馬郷宿／長崎国際大学国際観光学科（対馬市半井桃水館：対馬市）2018年2月18日

〔図書〕（計1件）

依寛司 編、対馬の記憶と未来のかたち - 社会学・民俗学・考古学から考える、文化財・観光スペシャリスト育成のための基礎的研究 - パブリックアーケオロジーの実践に向けて -、長崎国際大学国際観光学科、2018年

〔その他〕（計11件）

依寛司、外国考古学研究の動向（東南アジア）日本考古学年報66、pp.85-90、2015年
TAWARA, Kanji From regalia to festival: re-examination of the classification and chronology to specimens of later half of Heger I type bronze drums in East and Southeast Asia. The 15th International Conference of the European Association of Southeast Asian Archaeologists, 6-10 July, 2015. Université Paris Ouest Nanterre la Défense, Paris. Program and Abstracts. 2015年

依寛司、【著作紹介】『脱植民地主義のベトナム考古学 - 「ベトナムモデル」「中国モデル」を超えて - 』、観光学論集第11、p.127、国際観光学会、2015年

TAWARA, Kanji The kiln fired pottery in northern Vietnam. The Eighth World Archaeological Congress, Kyoto, Japan, August 28th - September 2nd, 2016. pp.185-187. 2016年

TAWARA, Kanji Ceremonial and sacred places (asylum) in Tsushima: a cosmopolitan view on the border between Korea and Japan. The Eighth World Archaeological Congress, Kyoto, Japan, August 28th - September 2nd, 2016. pp.322-323. 2016年

依寛司、対馬における儀礼と聖域（アジュール）：韓国と日本の「境界」におけるコスモ

ポリタンの視点 沖ノ島研究 3、pp.5-11、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議、2017年

依寛司、＜第13回東南アジア史学会賞記念講演＞脱植民地主義のベトナム考古学 - 「ベトナムモデル」「中国モデル」を超えて -、東南アジア学会会報 第106号、pp.28-29、2017年

依寛司、山形真理子、海境の文化資源とコスモポリタニズム - 日本海・太平洋・東南アジアの島々を中心として -、日本考古学協会第83回総会研究発表要旨、pp.66-67、2017年

依寛司、考古学から見た海境 - 島嶼・本土関係の再構築に向けて -、2017年次日本島嶼学会甌島大会発表要旨、2017年

依寛司、対馬の記憶と未来のかたち - 社会学・民俗学・考古学から考える（対馬ワークショップ記録）依寛司編、文化財・観光スペシャリスト育成のための基礎的研究 - パブリックアーケオロジーの実践に向けて -、pp.29-60、2018年

山形真理子、海民の土器を追いかけて 南シナ海とタイ湾を貫いた鉄器時代のネットワーク、小野林太郎、長津一史、印東道子 編、海民の移動誌：西太平洋のネットワーク社会、昭和堂、pp.204-207、2018年<査読あり>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

依 寛司 (TAWARA, Kanji)

長崎国際大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：80463925

(2) 研究分担者

山形 真理子 (YAMAGATA, Mariko)

金沢大学・国際文化資源学研究センター・特任教授

研究者番号：90409582

（平成28年度より研究分担者）

(3) 研究協力者

内川 隆志 (UCHIKAWA, Takashi)

國學院大学・研究開発推進機構・准教授

鄭 仁盛 (JEONG, Inseong)

大韓民国・嶺南大学校・文科大学・教授

福原 祐二 (FUKUHARA, Yuji)

島根県立大学・総合政策学部・准教授

バーバラ・ザヨク (SEYOCK, Barbara)

ドイツ・ルール大学ボーフム・教授

古澤 義久 (FURUSAWA, YOSHISHI)

長崎県教育庁・長崎県埋蔵文化財センター・主任文化財保護主事

加藤 剛 (KATO, Tsushishi)

京都大学・名誉教授

申 鎬 (SHIN Ho)

九州大学韓国研究センター・研究員